

**立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)**  
**大学院学生研究**  
**2019年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院	法学研究科	法学政治学専攻
<b>研究代表者</b> (2020年3月現在 のものを記入)	在籍課程・学年・学生番号		氏名
	<input type="checkbox"/> 博士前期課程 年 <input checked="" type="checkbox"/> 博士後期課程 3年 (学生番号: 17TD003P )		宮内 悠輔 印
<b>指導教員</b>	所属部局・職		氏名
	法学部・教授		小川 有美 印
<b>自然・人文・社会の別</b>	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 ・ <input type="checkbox"/> 社会	<b>個人・共同の別</b>	<input type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
<b>研究課題</b>	地域主義政党は排外主義とどのように向き合うか——90年代ベルギーの事例研究		
<b>研究組織</b> (研究代表者 ・共同研究者) ※2020年3月現在 のものを記入	在籍研究科・専攻・課程・学年		氏名
	法学研究科・法学政治学専攻 博士課程後期課程・3年		宮内 悠輔
<b>研究期間</b>	2019 年度		
<b>研究経費</b> (1円単位)	(支出金額) 200,000円 / (採択金額) 200,000円		

<b>研究の概要</b> (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)
本研究は、ベルギーの政党「ヴォルクスユニ」(VU)を事例に、地域主義政党が排外主義という政策争点といかに向き合うかを分析したものである。党勢が低下していた1990年代のVUは、立場が近く、かつより過激な政策を打ち出す政党「フレームス・ブロック」(VB)の台頭に直面し、VBの立場に接近するのではなく、距離を置くという選択をとった。報告者はVUの政党機関紙を用いて言説分析を行い、VUが排外主義に向かわなかった要因を解明しようと試みた。そして、排外主義という争点はVBが放った「ウェッジ・イシュー」で、他党を政策的に分断するものであり、これによりVUは党内で政策的な統一がとれなくなると結論づけた。

<b>キーワード</b> (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)
[ 地域主義政党 ] [ 排外主義 ] [ 政党システム ]

## 研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

## ① 本年度研究計画の着想に至るまでの経緯——事例の概要と、これまでの報告者の研究業績

報告者はこれまで、ベルギーの政党システムの中でも、特に「地域主義政党」(regionalist parties) と呼ばれる政党について研究を進めてきた。以下ではまず、事例に関する簡単な解説と、本研究計画の着想に至るまでの経緯を説明する。

## (1) 事例の概要

ベルギーは北部フランデレン地域(オランダ語圏)と南部ワロニー地域(フランス語圏)から成り、フランデレン地域南部に飛び地のように首都ブリュッセル(両語圏だがフランス語話者が多い)が存在する。建国以来、特に第一次世界大戦後より、オランダ語話者とフランス語話者の間で地域・言語的な政治対立が継続している。

第一次世界大戦後に出現したいくつもの「地域主義政党」は、たびたび政党システムで影響力を発揮してきた。第二次世界大戦後には、フランデレンの利益擁護を訴える政党「ヴォルクスユニ」(Volksumie: VU) が既成政党に迫るほどの支持を集め、1970年代後半には政権入りを果たしている。

また、1990年代には地域対立の問題に加えて排外主義の主張をも取り入れた地域主義政党「フラームス・ブロック」(Vlaams Blok: VB) (現・フラームス・ベラング, Vlaams Belang; 改名前と区別せず VB と略記) が支持を伸ばした。排外主義を掲げる VB に対しては、それ以外の政党が「防疫線」と呼ばれる協定を結んで一切の協力を拒否している。

そして、2001年に結成された VU の分裂右派「新フランデレン同盟」(Nieuw-Vlaamse Alliantie: N-VA) は、2010年の国政選挙以来、現在まで一貫して国政で第一党の地位を守っている。N-VA の躍進とともに、VB への支持はしばらく低下傾向にあった。だが、2019年国政選挙では VB は再び支持を回復しており、議席数で N-VA に迫りつつある。現代ベルギーの政党システムにおいて、もはや地域主義政党というアクターは無視することのできない勢力となっている。

## (2) これまでの報告者の研究業績

報告者は、修士論文執筆時より、上記 N-VA の躍進に着目してきた。N-VA がどういった政党であるかについては、ナショナリズム論からの研究でのアプローチが目立つ(たとえば, Duerr 2015)。その一方で、既存研究では VU との継続性を強調されることが多く(たとえば, Beyens et al. 2017)、N-VA を西欧で近年とみに注目を集める「ポピュリズム」現象と見なすことには否定的な見解が学界では根強かった(たとえば, Pauwels 2014)。

しかし報告者は自身の研究業績の中で、マニフェストを用いた言説分析によって、N-VA の台頭は「地域ポピュリズム」現象と呼ぶものであると結論付けた。そして論文内では、N-VA の戦略は、排外主義に対して曖昧な立場をとり、反エリート主義を採用しない形で地域アイデンティティを掲げてプラグマティックなアイデンティティ・ポリティクスを展開する「間エリート主義」(inter-elitism) に基づくものであることが指摘された。

上記研究業績の公表を行うにあたり、報告者はまず 2018年6月開催の第21回日本比較政治学会研究大会(於: 東北大学・川内南キャンパス)で研究報告を実施した。そして、席上での批判や指摘を踏まえて研究内容に修正を加え、『日本比較政治学会年報』第21号への投稿を行い、採択された。同誌は 2019年8月に刊行済みである(様式 3 ①-1) (なお、ここまでの研究成果は、様式 3 ②-1) [5]とも強いつながりを持つ)。

## ② 本年度の研究計画

## (1) ヴォルクスユニへの着目——2019年度日本選挙学会研究会まで

修士論文以来の研究を形にした報告者は、ベルギーの政党システムや地域主義政党にさらなる追究を加えるため、新たな計画を策定した。報告者はこのとき、N-VA の成長を検討するにあたっては、前身政党である VU を分析することが不可欠であると考えた。(次頁へ続く)

## 研究成果の概要 つづき

VU は既述の通り、1970 年代には政権入りを果たすなど順調に党勢を伸ばしていた。しかしその後は支持を落とし、1990 年代には VB の出現によって地域の代表者としての立場を独占できなくなり、最終的には 2001 年に解党している。その要因として一般には、分権化の進行と地域問題の「全国化」がかえって党勢を削いだことが挙げられる（たとえば、Deschouwer 2013; van Haute 2005）。

報告者は、VB の躍進に直面した VU が排外主義を取り入れなかったことに着目した。そして、VU の政党機関紙における言説を分析することを試みた。この研究は、2019 年度日本選挙学会研究会（於：東北大学・川内南キャンパス）にて発表が行われた（様式 3 ④-（1））。ただし、同学会での発表では、研究における理論的関心の甘さや言説の解釈について、討論者からの批判を受ける結果となった。

## (2) 排外主義の位置付けを確定する——『年報政治学』投稿まで

学会研究会での批判を受け、報告者は研究内容の見直しを迫られることとなった。報告者はまず、VU を、政党システム上において既成政党が強調してこなかった政策を中心的に掲げるいわゆる「隙間政党」と見なし、この「隙間政党」論（Meguid 2007）を軸に研究を再構成した。そして、地域問題という「隙間」内部における、政策争点をめぐる VU と VB のせめぎ合い、および VU 側の政策の揺らぎを動的に描写しようと試みた。この初稿では、VB の台頭を受け、VU では排外主義に傾く路線と政治的リベラリズムを強調する路線のいずれにも統一できなくなっていたと報告者は論じた。内容を改めた論文は、日本政治学会学会誌『年報政治学』への投稿を行った。

しかし、同誌における査読では、「隙間政党」論を採用することへの疑義、および「なぜ VU は排外主義の採用に動けなかったか」の要因を明快に説明できていないことを指摘された。新たな理論的支柱が必要となったため、報告者は「ウェッジ・イシュー」論（Van de Wardt et al. 2014）を採用した。ウェッジ・イシュー（wedge issue）とは、新興の政党が他党の綱領における統一を分断するために用いる政策争点のことである。そして論文では、VB の排外主義はウェッジ・イシューとして機能し、地域政策では似通った立場の VU の政策方針を硬直化させたと結論付けられた。以上の修正により、『年報政治学』2020 年度第 1 号へ論文が採択された。同誌は 2020 年内に刊行予定である（様式 3 ①-（2））。

なお、報告者は今後、ベルギー研究で得られた知見の普遍的な意義の追究を目的に、他国の事例との国際比較を計画している。同計画は現時点では試論的な内容に留まるものの、2020 年度日本選挙学会研究会（於：高知工科大学・永国寺キャンパス）での発表が決定している（様式 3 ④-（2））。

## 引用文献

- Beyens, Stefanie., Kris Deschouwer., Emilie van Haute., and Tom Verthé. (2017) "Born Again, or Born Anew: Assessing the Newness of the Belgian New-Flemish Alliance (N-VA)," *Party Politics*, 23 (4).
- Deschouwer, Kris. (2013) "The Rise and Fall of the Belgian Regionalist Parties," in Hepburn, Eve., ed. *New Challenges for Stateless Nationalist and Regionalist Parties*, Abingdon: Routledge.
- Duerr, Glen.M.E. (2015) *Secessionism and the European Union: The Future of Flanders, Scotland, and Catalonia*, Lanham: Lexington Books.
- Meguid, Bonnie. (2007) *Party Competition between Unequals: Strategies and Electoral Fortunes in Western Europe*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Pauwels, Teun. (2014) *Populism in Western Europe: Comparing Belgium, Germany, and the Netherlands*, London: Routledge.
- Van de Wardt, Marc., Catherine E. De Vries., and Sara B. Hobolt. (2014) "Exploiting the Cracks: Wedge Issues in Multiparty Competition," *The Journal of Politics*, 76 (4).
- van Haute, Emilie. (2005) "La Volksunie (VU): Triomphe des Idées, Défaite du Parti," in Delwit, Pascal., ed. *Les Partis Régionalistes en Europe: Des Acteurs en Développement?*, Brussels: Édition de l'Université Bruxelles.

**研究発表** (研究によって得られた研究成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて提出してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

- (1) 宮内悠輔. 「地域アイデンティティと排外主義の共鳴と隔離——現代ベルギーにおける 2 つの地域主義政党の事例」『日本比較政治学会年報』第 21 号, 2019 年, 135-161 頁.
- (2) 宮内悠輔. 「ベルギー地域主義政党の政策的硬直——ウェッジ・イシュー戦略の帰結」『年報政治学』2020 年度第 I 号, 近刊, 頁未定.

② 図書

- (1) 松尾秀哉編. 『ベルギーの歴史を知るための 50 章』, 明石書店, 近刊, に所収予定の以下の 5 稿 (いずれも頁未定かつ仮題).

- [1] 宮内悠輔. 「学校戦争——自由主義政党とカトリック政党のせめぎ合い」.
- [2] 宮内悠輔. 「地域言語政策——進む改革, 残る遺恨」.
- [3] 宮内悠輔. 「戦後復興期の対立——ベルギーのデモクラシーが再出発するまで」.
- [4] 宮内悠輔. 「連立時代の到来——三大政党による政治の確立と新規参入」.
- [5] 宮内悠輔. 「ポピュリズムの時代——ベルギーのデモクラシーはどこへゆくのか」.

③ シンポジウム・公開講演会等の開催

該当なし.

④ その他

- (1) 宮内悠輔. 「地域主義政党における排外主義の (非) 選択——ベルギー地域主義政党・ヴォルクスユニの事例」, 2019 年度日本選挙学会総会・研究会, 東北大学・川内南キャンパス, 2019 年 7 月 14 日報告.
- (2) 宮内悠輔. 「サブステート・アイデンティティと政党政治——ベルギーとカナダの国際比較による試論」, 2020 年度日本選挙学会総会・研究会, 高知工科大学・永国寺キャンパス, 2020 年 5 月 16・17 日の日程内で報告予定.